

チツリー・プラザ」はリゾートホテルで、自民党議員団が宿泊するホテルもロビーにシャンデリア。一方、記者が宿泊したホテルは壁にひびの入った薄暗いモートルだった。

日本で同じ値段を払えば、もっとまともなホテルに泊まれるが、米国は15%程度の宿泊税があり、宿泊費もかさむ。利用したタクシーの運転手にも「このホテルは良くないよ」「なぜこんなホテルに？」と言われる始末だった。

現地では、J Aグループ北海道の代表団や、荒川裕生副知事らを取材したが、事前に予定が決まっていなかったが多かった。随時、連絡を取りながら政府や自民党議員団からの非公開の説明会後に取材。その他は交渉会場で夜8時ごろに開かれる全体会合まで、その日の動きなどを探った。

交渉会場には報道用待合室が用意され、待機する数十人の報道陣の大半は日本から。米国事情に詳しい日本人によると、一般の米国人はTPPをほとんど知らないという。

会場外で行われた道内選出参院議員らのTPP反対運動を見た米国人から「TPPって何？」と聞かれ、「自由貿易協定（FTA）の一種」と答えたが、記者の発音が悪いのか、そもそもFTAを知らないのか「Free（フ

リー）」を「スリー？」と何度も聞き返された。

米国の市民団体によるTPP反対デモも行われたが、日本の報道陣はほとんど取材せず。会場前に押しかけて騒然とした状況になってから、慌ててカメラを向けるテレビクルーも。

会合は2日まで延長の可能性があったため、3日に帰国する予定だったが、まさかのさらなる延長に。記者も滞在延長を検討したが、費用も多額になるため断念した。

■合意の大臣 和らぐ表情

結果、移動に30時間をかけ4日深夜に十勝に帰るまで交渉は決着せず。5日未明に甘利明TPP担当相が時折和らいだ表情を見せながら大筋合意に達する見込みを示した。

会場のぶら下がり取材などで見た甘利大臣の表情は極めて厳しかったが、流れが変わったのを感じた。翌朝、帰勝から8時間後に出社し、畑にも出向いて大筋合意への十勝の農業者の反応を取材。農産物で多くの譲歩をし、多額の出張費を掛けた困難な交渉から生まれた大筋合意。十勝に果たしてどんな影響があり、どう対策するのか、本当に日本に有益な経済効果をもたらすのか、取材を続けていきたい。

TPP十勝への影響は？ 畜産編

2015年10月21日

輸入拡大 国産肉の価格直撃

環太平洋連携協定（TPP）の大筋合意の全容が20日に明らかになり、十勝農業に影響を及ぼす品目が多く含まれていることが改めて明らかになった。畜産、酪農、畑作に分け、十勝に関わる品目を整理した。

■牛肉 10円以上値下がりも

十勝農業（畜産）に関係する TPPの主な関税撤廃・削減品目		
品目	現行	撤廃・削減内容
牛肉 （生鮮・冷蔵・冷凍）	38.5%	16年目に9%に
牛タン	12.8%	11年目で撤廃
サガリ（ハラミ） など牛内臓肉	12.8%	13年目で撤廃
豚肉 （生鮮・冷蔵・冷凍）	低価格帯 1kg482円 高価格帯 4.3%	低価格帯は 発効時に125円 10年目以降50円 高価格帯は 10年目以降撤廃
ハム・ベーコン	従量税1kg 614.85円 従価税8.5%	11年目で撤廃
鶏肉（丸どり）	11.9%	11年目で撤廃
鶏肉（骨付きもも）	8.5%	11年目で撤廃

生鮮・冷蔵・冷凍は現行38.5%の関税を発効1年目に27.5%、10年目に20%、16年目までに9%まで下げる。為替などの影響も大きい、100グラム200円の牛肉が10円以上値下がりするとみられ、小売りや外食で米・豪産の勢いが増しそうだ。

1991年に輸入枠を撤廃し、税率を70%から20%引き下げた「牛肉自由化」では、安い牛肉が食べられるようになった半面、国産価格が急落。全国の肉牛農家数が5年間で3割減った。牛肉の自給率も1985年ごろは70%以上だったが、自由化後は40%ほど（飼料自給率を考慮すると10%ほど）に低下しており、TPP後はさらに下がる可能性もある。

関税削減までの期間は自由化時に比べ長い、引き下

げ率は自由化時の20%に近い。国内生産は自由化を経てある程度強化されているという見方もあるが、国の政策次第ではさらなる再編を迫られる。

牛内臓肉では、牛タンが現行12.8%を1年目に6.4%に削減、11年目に撤廃。牛タンは97%を輸入に頼っており、有名な仙台でもほとんどが輸入だ。

国産牛は十勝が主産地の乳用種の雄が多くを占めるが、乳牛に価格の高い和牛や交雑種を産ませることも増え、頭数が不足気味。十勝の焼き肉店では一部国産の牛タンも提供しているが、供給量減少で品切れも起きている。国内生産が減少すれば、さらに国産牛タンは希少な存在になりそう。

十勝で人気のサガリ（ハラミ）など牛内臓肉も現行12.8%が1年目に6.4%となり、13年目に撤廃。サガリは9割以上が既に輸入で、農水省は「国内産は足りず、影響は少ない」という。ただ、TPPで国産がさらに駆逐されれば、安い輸入肉が食べられる一方、十勝でなじみの国産サガリは希少な「高根の花」となるかもしれない。

日本からの輸出では、米国が日本産牛肉に対する関税（26.4%）を15年間で撤廃するが、十勝は主産地で肥育